

この紙面は山田健康センターのホームページ上でもご覧いただけます

山田健康センター 検索



第206回の西式甲田療法勉強会は、9月14日(土) 14:00～ 当店及びプリズムホールで。テーマ「概論・健康を支える4本柱、甲田先生ビデオ」¥600。断食食は冷やしくず断食¥400。事前にお問合せ、お申込みください。

○故甲田光雄生誕100周年……温故知新

この集会在きっかけで懐かしい思い出が走馬灯のようにこみ上がった。いくつか…

親分肌の人………病人は自分が受け入れなければならない苦痛を抱いている立場の人である。そしてその親族もまた同じ苦しみを共有する立場だ。要は困っていてその出口を探している。そしてそういう人の苦を取り除くことを生業とするのが医者である。自らが病を得て回復してきた履歴を持つ甲田先生は、親分肌の気性を持っておられ、まさに医療従事に相応しい印象。いや、並の医者以上に頼られるので、結果的に難治性の病気や慢性化して一筋縄ではいかぬ病人が噂を聞いて集まって来る。ややこしい病気の見本市かのような医院であった。

人情家………情に厚い浪花節の人。浪曲や陽気な河内音頭を好まれていた。「義を見てせざるは勇無きなり」とばかりに接する人柄だったから、この人の窮地を救いたいと思えばとことん治るまで付き合おうとバカ根気(ご本人の弁)がムクムク湧いてくる気性。そのため無茶な迷惑まで抱え込んで四苦八苦する場面も。

公私は無く公の活動………仕事中心主義で家庭は後回し。亭主の働き、父親としての役割などはあまり感じられない。ご家族みなさんはさぞ大変だったろう。遠方での講演、会議があっても遅くに帰宅して一目散に入院患者の夜の回診で各部屋へ。たった一度、北海道講演の日は帰れずに回診は無かった。

卓越した記憶力………講演中、数字や年代、人名などメモを見ることなくポンポン飛び出してくる。直前に記憶したわけではなく、頭の中の引き出しから即座に出してこられ

る。ご自身の言によれば「S字結腸に宿便が無くて清浄でないと出来ないこと」

○核となる健康村創設の実現を夢見ていた

浜の真砂のごとく病人は絶えない。こんな現状では毎日治療に当たってもキリが無い。予防医療の普及とそれを体験する場が必要。自らに向き合い、反省と精進の修行を実践するための道場を創始したかった。ただし独りではなかなかやり切るのは難しい。やはり同行のサンガが集う集団が要る。そこで、少人数でもいいから農に従事しつつ暮らせる静かな山間の地が望ましかった。そこがやがて“理想郷”にと育って行く高い夢を描いていたのだ。



候補地の情報は患者や関係者からすぐに10件ほど寄せられた。車移動が前提で先生が医院と現地を往復できる場所であることが条件となる。忙しい先生に代わり私も有力な3カ所を下見に出かけた。いずれの場も荒れ果てた大きい目の空き家がポツン。その周囲に草ボウボウの農地が1反ほどあり、隣家は目につく場所には見当たらない。山裾の地形柄夕方4時には日照は無く薄暗くなる。そうした現状を私見を添えずにありのまま報告した。「ご苦労さん」のお言葉以後、触手が動く気配は一向に無かった。それに先遣隊として入植する候補者も見当たらない。実現性が怪しくなってきた。

今日田舎暮らし希望者には地元自治体から援助金や特典を提供する時代にと様変わりしてきた。やはり「天、地、人」の3拍子が揃って初めて動き出す。40年早かったと感じる。嗚呼兵(つわもの)どもの夢の跡哉。

汗拭き作業、飲水などを挟まざるを得ないので、農作業に集中できない。すると作業段取りや手順決定を考える判断力まで鈍って、一手間をうっかり忘れてしまうこともあり能率が悪いのだ。そんな悪環境下であつても予想外の出来事に出くわし驚かされることが偶にある。土を掘り返していたら、直径10. cm程のトンネルが掘られていたり産み付けられた卵を発見することもある。動物が蠢いた気配。昼間でなく夜間だろうからこの目に留まることでは無い。畑で動き回るのは自分だけではないと色々想像してみる。トンネルはモグラが餌となるミミズを探し回っていたのかもしれない。また卵はウズラ大の大きさのものが5〜6個片間ついていたので何かの鳥か大型のトカゲが産み落として埋めた仕業だろうか??? 犯人は分からない。それにしても、よくまあ危険なこんな場所に放置して行くなんて余程切羽詰まっていたのかもしれない。真剣に子孫繁栄を考えてのことなのと疑ってしまう。が、自然界での動物たちの生態に関してはまだまだ知らない事だらけのこちらである。人間にとつて厳しいと思える自然条件であつても昆虫や蟻には最適環境なのだから生物一般十人十色。悔しかったら適応能力を拡大してみる、と草木が嘲笑。

☆ 如是我聞——甲田語録 59

> 瞑眩＝症状即療法 ① <

東洋医学では現れた症状は即ち療法だと観ます。即ち痛い、痒い、怠いなど認知される症状が現れてきたら体が自ら治している瞑眩だという立場です。断食したら色んな反応症状が現れてくることありますが、西式でもこの瞑眩を症状即療法だと捉えています。中国の古書「尚書」には「もし薬、瞑眩せざればその病癒えず」とか「孔子伝」にも「薬を服し瞑眩極まって、その病即ち除かる」とあり、瞑眩が出て病気は治るが、出なかったら治らないという訳です。

またイギリスの医師トーマス・シデーナムさんもまた病気とは有害な素因を排除するためでありこれは自然が対応する「方法」であるとの考えです。

ところが、瞑眩とは断食では不可避なんが現れた時の辛さを経験したなら気持ちがおひるんで萎えてしまうものです。或いはもう二度とはご免だと後悔が起きるかもしれない。これが何とかならないかと考えつつ私は繰り返し断食に挑戦してきました。すると時として殆ど苦しさが現れない断食があることに気が付きました。そしてその違いは何が原因かとハタと閃いたのでした。それは断食前の準備具合によるのです。

そしてその違いは何が原因かとハタと閃いたのでした。それは断食前の準備具合によるのです。

第1回 生菜食5週間トライアル 開催さる！ 山田健康センター、森鍼灸院 共催

2024年10月19日(土)13:00～ 開始前健診(問診と簡単なアンケート) および内容指示<翌20日から実践的健康生活(準備食の後、生菜食法を約30日間と西式運動ほか)を開始。実行記録票に○×記入して頂きます> なお西式体操や裸療法、温冷浴をご存じない方は10/5の勉強会にて予習の事
11月23日(祝)13:00～ 終了時健診(アンケート)、記録票提出
定員: 15名(体力無い方や重大疾患の方は参加できません) 参加費: 両日とも各2,500円
申込締切: 10月12日 詳細問合、申込: 当センター 担当: 山田修

※当センター主催 今期西式甲田健康法勉強会・今後の予定

今期も、昼食に断食メニュー体験を併せて行ないます。1日断食を断行するきっかけになりますので、朝食抜きでどうぞ奮ってご参加下さい。講習会参加費1回600円・断食食400円(自由)事前申込必要。

| | | | |
|-------|----------------|--------------------|--------|
| 第207回 | 10月 5日(土)14:00 | 実習・西式六大体操 その意義と活用 | すまし汁断食 |
| 第208回 | 11月 9日(土)13:00 | 少食の実際・試食会と二食主義や断食法 | 断食はナシ |